

会議録兼報告書

会議名	第5回 伊那市民憲章策定委員会	
日時	平成28年1月28日(水) 午前10時30分から午後11時30分	
場所	庁議室	
出席者	委員	
	所属	氏名
	委員長	井上 康良
	副委員長	北原 紀孝
	委員	西村 美里
	委員	中村 繁子
	委員	山岸 眞由美
	委員	宮脇 瑞穂
	委員	鈴木 岬
	委員	小林 眞由美
	事務局	
	所属	氏名
	総務部長	原 武志
	総務課長	馬場 文教
庶務係長	白鳥 英一	
庶務係	有賀 恵	
<p>中村 正委員及び黒河内 貴委員については都合により欠席。事務局より事前に説明し、委員会の協議に一任する旨の回答あり。</p>		
議題	(1) 市民憲章答申(案)について (2) その他	
資料	資料1 伊那市民憲章(案)修正案	

(委員長)

前回までの会議において十分に議論してきたところですが、最終的な答申案を整えるにあたりまして二つの点につきまして、もう一度検討していただきたく本日お集まりいただきました。事務局からの説明のとおりですが、ひとつひとつ考えていったほうがいいと思いますので、順番に審議したいと思います。1番につきましては、今説明のあったとおりですがいかがでしょうか。

(委員)

すいません。今、伊那市で人口を増やすために各部署で一生懸命に取り組まれているところだと思います。最近の田舎暮らしの本で、伊那市が「暮らしやすい町」、「住みたい町」という町として載っているということです。この「暮らしやすい」という言葉はこれからとても重要になる言葉で、特に外から入ってきてくださる方にとっては一番大事になる言葉になると思ひまして、「暮らしやすい」という言葉は欠かせないと思います。

(委員長)

はい。

欠かせない、大事なキーワードであるこの言葉を入れながら、ここでは（聞き取れない）という言葉が削除されて、「伊那市を創造する」に含まれるということかと思ひます。他にはいかがでしょうか。

(委員)

今の意見に賛成です。

当初から「生きがい」、「働きがい」、「暮らしがい」とありましたが、審議を重ねる中で「暮らしがい」が言葉的にどうかということになりました。しかし「暮らしやすく」という言葉になると、とても暖かみがあって良いと思ひます。

(委員長)

はい。

「」では括ってないですが、自然に平和で希望に満ちたという繋がっている感じがとてもいい感じに入っているように思ひます。

(委員)

最初は「生きがい」「暮らしがい」と並ぶと長く感じましたが、やはりこちらの方がいいと思ひます。三つあったほうが言葉として整う感じがします。

(委員長)

この修正案で良いというご意見かと思ひます。

この修正案だと文章にすんなり入っていける、ということによろしいでしょうか。

(委員)

この修正案のとおりで良いと思ひます。

(委員長)

わかりました。1番についてももう一度読み上げます。

私たちは、「生きがい」「働きがい」があり、暮らしやすく平和で希望にみちた伊那市を創造するため、ここに市民憲章を定めます。

よろしいでしょうか。

(一同異議なし)

(委員)

この市民憲章を作成した年月日は最後に入るのでしょうか。

(事務局)

答申を頂きまして、今後、議会に報告して、市民の方々にも公表しますよね。その時に、何月何日制定と言葉をつけます。答申の日イコール制定の日とはならないと思いますが、区切りのいい日に制定するようになるかと思います。

(委員)

わかりました。

(委員長)

皆様に審議して頂きました結果、1番については修正案どおりの文言をいれて修正するというところで決定したいと思います。

それでは2番の修正案の審議に移りますが、大きく3つ、「願い」や「祈り」、「夢」や「心」などを考案し提案して頂きました。ご説明をお願いします。

(委員)

はい。市民憲章を重んじた表現となると「誓いの言葉」や「願いの言葉」といったまとめ方が良いのかなと考えます。もうひとつ、伊那市自身のまちの在り方を中心に置くという事になれば、「輝くまちに」や「輝く未来へ」といった表現になります。

どちらの考え方をとるべきか迷いましたが、「まち全体のあり方」と「市民憲章という言葉」の2つの大きな観点から考えて、2番の(ア)～(サ)のとおり、ご提案させて頂きました。

(委員長)

いかがでしょうか。

(委員)

「祈る」という言葉より「願う」という言葉の方が一般的だと思います。「祈る」という言葉は、偏った解釈で宗教的なものとする人が居るかもしれません。

(委員長)

「祈り」と「願い」の違いですね。(案)の中では(ク)～(サ)が「祈り」です。ということになれば、「願い」の表現を使っている(ア)～(キ)の中から選んだほうが良いということでしょうか。

(委員)

はい。私はそう思います。

(委員長)

多くの市民の皆様からみたとき、平易な表現の方が良いということですね。

(委員)

(カ)の案が希望の未来へ向かって進もうという感じがして、とても明るい気がして良いと思います。

(委員)

まち全体のことを考えるならば(ウ)の方が少しありますし、(カ)は先ほどのご意見のとおりだと思います。「未来」は全体的に見ても使っていない言葉なので、候補のひとつだと考えます。

(委員)

(ウ)の「このまちの平和を願い 人々の夢を託して 輝く未来へ」が、全体としては文章が整うかなと思います。

(委員長)

今までの意見をまとめますと、(ウ)と(カ)になるのでしょうか。

(委員)

(ウ)の「輝く未来へ」の部分が「希望の未来へ」でも良いと思います。私は(ウ)が良いと思います。

(委員)

普遍性から考えまして、「夢」と「心」のどちらが良いのでしょうか。

(委員長)

「人々の日々を託して」や「人々の心を託して」よりは「人々の夢を託して」の方が良いと思います。

(委員)

「夢」が条文のひとつの項目だと感じて頂ければ、「夢」を推したいと思います。

(委員)

修正前の文章も生かして、「輝く未来へ」と繋げる(ウ)が良いと思います。

(委員長)

今まで審議をしてきましたが、いかがでしょうか。

(委員)

50年後100年後を見据えたときに、100年後の伊那市民から見たとして、「輝く未来へ」とあるのが良いと思います。

(委員長)

大分、審議を尽くしてきたところだと思います。

これまでの審議をまとめますと、(ウ)の案が、原文を大事にしながら遠くを見据えている点で優れているということになるでしょうか。

(委員)

あまり「まち」を繰り返すよりも、「未来」の方がいいと思います。

(委員長)

(ウ)案でよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

(委員長)

それでは、(ウ)案の「このまちの平和を願い 人々の夢を託して 輝く未来へ」に決定いたします。本日、検討していただいた内容で答申を行います。以上で委員会を終了します。

(終了)